

2	日韓文化交流基金理事長を辞するにあたって.....熊谷直博
3	表紙使用作品および表紙作家紹介
4	日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業
5	●助成事業紹介 「日韓」の交流から「日韓」を超える交流へ - 政治学からの挑戦 日本政治学会・韓国政治学会交流事業.....木村幹
6	2004年度助成対象事業
8	2004年度訪日・訪韓フェロシップ採用決定
10	日韓文化交流基金事業報告
12	●フェロー研究紹介 ソウルの村祭（マウル・クッ） - 都市に生き続ける巫俗の伝統 -浮葉正親

日韓文化交流基金理事長を辞するにあたって

● 熊谷直博



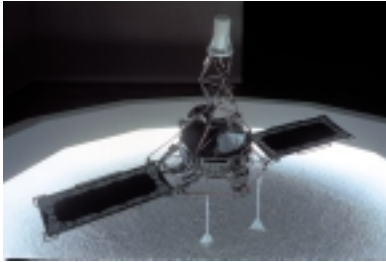
この度私は、財団法人日韓文化交流基金の理事長を退くこととなりました。5年有余の期間日韓文化交流の仕事に携わって個人的に感じたことを書き綴ってみました。

私は、平成10年(1998年)8月4日に、このポストに就きました。折しも韓国の金大中大統領がその年の10月に国賓として来日し、「日韓間の未来志向での交流」を両国首脳の間で共同宣言として発表する2カ月前のことでした。この4月で、それから満5年と8カ月の時が経過します。満71歳の私

にとり、この5年8カ月という期間は、不足のない、充実した期間でありました。日韓文化交流の仕事に対する充分の満足感を抱いて去らせていただくこととなります。その間、基金ニュースの読者の皆様と折に触れお目にかかり、色々な励ましを頂戴いたしました。ありがとうございました。

この5年有余の期間、基金理事長の職務を通じてのさまざまな面で、日韓交流に情熱を抱く多くの韓国や日本の人たちとのお付き合いがありました。いわゆる歴史

表紙作品



「伝道者」2002 スチレン・スチール、銅、真鍮
240×60×120cm
第1回府中ビエンナーレ「ダブル・リアリティ」
(府中市美術館) 出品作



【参考】「a floating reality」1997
ステンレス、ゴム、蛍光灯
120×70×35cm
煥基美術館展示より

表紙作家紹介

山内幾郎(やまうち いくろう)



1970年東京都生まれ、1996年東京芸術大学大学院美術科彫刻専攻修了。
個展・1999「Ikuro Yamauchi: 98 Prix Whanki Winner」(煥基美術館、韓国・ソウル)、1998年ギャラリーQ(東京) 1997年ギャラリーQ(東京) 1995年ギャラリー美遊(東京)
【グループ展】2003年「ギャラリーQ開廊20周年記念展」(ギャラリーQ、東京)、2002年「第1回府中ビエンナーレ/ダブル・リアリティ」(府中市美術館、府中) 1999年「NICAF ギャラリーQ(ブース)」(有楽町国際フォーラム、東京)、1998年「Prix Whanki - ソウル・ベルリン・東京」(煥基美術館、韓国・ソウル) 1997年「日常からの回避」(ギャラリーQ、東京) 1996年「フィリップ・モリス・アートアワード」(スパイラル、東京)
【賞歴】1994年サロン・ド・ブランタン賞(東京芸術大学卒業制作展) 1998年PRIX WHANKIグランプリ(煥基美術館、韓国)

作者のことは

1998年、99年と、ソウルにある煥基(ファンギ)美術館で展覧会を開催する機会(1998年「Prix Whanki - ソウル・ベルリン・東京」、1999年「Ikuro Yamauchi: 98 Prix Whanki Winner」)があり、関係者、ソウルで出会った方々に大変お世話になりました。展覧会の準備がひととおり完了したところで呉光洙(オ・グァンス)館長(当時)から“犬料理”の昼食のお誘いをうけ、日本では考えられない食材に私も興味があったので同行させていただきましたが、店に入るや私の叔父が経営している動物病院と同じ臭いが漂っていたのでかなり面食らったのを覚えています。日本から一番近い国でありながら、文化、人間の気質の違いを痛感しつつ、ソウルの人々の温かいもてなしに感謝しながら過ごした日々は私の貴重な体験として今も鮮明に脳裏に焼きついています。

認識問題に関わる日本と韓国の軋轢の歴史をつぶさに体験することもありました。また、2002年のサッカーW杯の共同開催を成功裏に遂行したことが大きな契機となり、今や日韓両国関係は後戻りのできない「本当に近くて近い関係」になりました。市民レベルでの交流は1日1万人が両国間を往復する時代となっています。このことは両国間の相互理解と信頼関係増進のために先人が過去長い間積み重ねてくださったご努力の結果ですが、私の理事長時代のこの数年は、たまたま金大中、盧武鉉両大統領の時代の前向きな対日開放政策と、サッカーW杯共同開催の成功という追い風を得たことで、特に大きな進展がありました。こ

の期間の日韓関係の拡充は本当に目を見張るものがありました。

私自身も古代からの日韓関係の歴史を改めて勉強する機会に恵まれ、得るところの大きい期間でありました。日韓の学者・研究者の方々のアカデミックな会合から、青少年や教員などの人物交流まで幅広くお手伝いさせていただきながら、多くの日韓両国の学者・研究者、教員・学生の皆様にお目にかかり、興味深いお話をたくさんうかがいました。さらに基金のフェロシップ制度で来日された韓国の研究者の皆様と、訪韓する日本の研究者の皆様から、通常なら得られないたくさんの貴重な研究成果や体験談を聞き、知識とすることもできました。基金の夏の韓

国訪問旅行の機会に、交流に大きな貢献をされた個人の方に「日韓文化交流基金賞」を贈るということも、私の時代に創設されました。

今基金理事長のポストを去るにあたり、思い残すことがありません。それは、私が韓国在勤時に始めて、ものにならなかった韓国語会話の勉強を今回完成させるべく挑戦したにもかかわらず、老いの身に外国語は難しいらしく、一向に効果が現れなかったことです。できれば、理事長を退いた後も、この挑戦は続けたいとの意欲だけは持っております。

日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業

当基金では、日韓首脳会談の合意に基づき、1999年度より日韓中学高校生交流事業の一環として、財団法人ボーイスカウト日本連盟と社団法人ガールスカウト日本連盟に日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業を委託しています。
5年目となった今年度は、初めて夏から冬に時期を移し、新鮮な交流プログラムが展開されました。

ボーイスカウト日本連盟が受け入れた韓国中高生スカウト99名は、1月10日に成田空港に到着しました。東京では「新しい世紀・新しい始まり～New Century-New Beginning～」をテーマとした日韓スカウトフォーラムに参加し、相互理解を深めました。12日からは長野県へ移動し、オリンピック施設の視察や、スキー、スケートなどのウィンタースポーツを体験し雄大な自然に魅了されました。14日から

は関西へ移動し、京都、奈良の視察の後、京都、奈良、滋賀の3府県に分かれ、2泊3日のホームステイを行いました。韓国スカウトは9泊10日のプログラムを終え19日に帰国しました。

ガールスカウト日本連盟が受け入れた韓国中高生ガールスカウト50名は、1月5日に関西空港（Aコース）と福岡空港（Bコース）の2グループに分かれて来日しました。最初の3泊4日間は、Aコースは愛知県を中心に、B

コースは山口県を中心に、史跡視察やホームステイなどの交流プログラムに参加し、地域の方々とのおふれあいを楽しみました。8日には両グループが東京に集合し、お台場や原宿など都内視察を行いました。10日には日韓両国の文化、歴史、暮らしなどを紹介する「Friendship Day」、11日には今回の交流を通して得た成果と、それを生かしてこれからの未来に向けて自分にできることを考え、意見交換を行う「シェアリングフォーラム」を開き、平和をテーマに活発な討論が行われました。8泊9日の日程を終えた韓国ガールスカウトは13日に帰国しました。

10年計画で実施されている本事業が今年度でちょうど5年目という節目の年は、昨年初めのアジアにおける新型コロナウイルス（SARS）の流行の影響を受け、実施時期の変更を余儀なくされ、訪日期間も若干短縮されました。しかし、このことに対しては、両スカウトとも準備時間が増えたと発展的にとらえ、新鮮なプログラムの開発と交流プログラムの充実により一層力を注いだことが、よい成果をもたらしました。ボーイスカウトでは冬季ならではのスポーツを取り入れたプログラムが好評を博し、ガールスカウトでは高校生レンジャーが主体となったプログラムを組み込むなど、例年にも増して充実した交流となりました。



【ガールスカウト】愛知県支部「評価会」。お互いの理解を深めるために情報交換



【ボーイスカウト】スキーに挑戦

「日韓」の交流から「日韓」を超える交流へ - 政治学からの挑戦 日本政治学会・韓国政治学会交流事業

木村 幹 神戸大学大学院国際協力研究科助教授、日本政治学会日韓交流小委員会委員長

「日韓新時代」の到来と「未来志向」的な関係の必要が叫ばれはじめてから、ずいぶんになった。これまたよく言われるように、今日の日韓の間では、平均して1日1万人以上もの人々が行き来するようになっている。もちろん、交流の拡大は、政治学の分野にも及んでいる。かつては、韓国における日本留学経験者を中心に行われてきた両国の交流は、その様相を大きく変えようとしているように見える。韓国に日本留学経験者がいるのと同様に、今日の日本には韓国語を話す研究者が数多く存在するようになり、日本人と韓国人が韓国語で政治を議論することはもはや珍しいことではない。しかし、今日の交流はそのような次元にさえ留まらない。両国には、共に巧みな英語を操り、同じ「政治学」という学問分野において研鑽を積んだ研究者たちが存在し、共通の問題認識に基づき、活発に議論しはじめている。

このような研究者のあり方は、学会交流のあり方をも変えようとしている。これまで我々が議論してきたのは、主として日韓のいずれか、あるいは双方に横たわる具体的な問題についてだった。確かにそれは日韓交流が即ち、韓国における日本研究者と日本における韓国研究者の集まりであった頃にはそれでよかった。しかし、学問の国際化が進んだ今日では、人々の関心は、より抽象的な問題へと向けられている。明らかなのは、我々の交流が分岐点に差し掛かりつつあるということである。



交流セッション—左から1名おいて白鳥浩（法政大）、若畑省二（信州大）、馬仁燮（成均館大）、金浩燮（中央大）、姜明世（世宗研究所）の各氏

ある。

昨年12月4日に外交安保研究院（韓国・ソウル特別市）にて行われた、韓国政治学会研究大会における日韓両政治学会の交流セッションは、そのような今日の日韓両政治学会の交流を象徴するものであったと言えるかもしれない。このセッションにおいて事実上の共通テーマであったのは、今日の日韓両国における政治的クレーヴィッジ（対立軸）をどのように理解するか、ということであった。即ち、白鳥浩法政大学助教授の報告「日本政党システムの変容」は、ロッキンの政治理論を基礎に、日本政治について議論したものであり、また、若畑省二信州大学講師の、「民主化以前の韓国選挙における与村野都構造と韓日比較分析の可能性」は、朴正熙政権期の「与村野都」（農村部では与党の当選率が高く、都市部では野党が高い現象）的政治構造について、数値的データを用いた分析を行った。これに対して、韓国側からは、馬仁燮成均館大学校教授が「社会

構造の変化と民主主義の定着」という表題の下、韓国の現状分析を行った。

重要なのは、こうして研究者たちが日韓の事例をそのものとして扱うのではなく、そこから何らかの学問的意味合いを汲み取ろうとしていることである。そのことは、従来は特定の問題に拘泥し、時として議論のかみ合わない傾向さえあった日韓両国の政治学会の交流を大きく変えつつあるように見える。日韓両国の政治学会が、何を共に研究し、何を世界へと訴えかけてゆくのか。それが単なる日韓の交流に留まらず、政治学という学問そのものの発展へとつながることを願ってやまない。



きむら かん

京都大学大学院法学研究科修士課程修了。愛媛大学法文学部助手、同講師を経て、1997年より現職。著書に、『韓国における「権威主義的」体制の成立』（ミネルヴァ書房、2003年）『朝鮮／韓国ナショナリズムと「小国」意識』（ミネルヴァ書房、2000年）ほか。

2004年度助成対象事業

2004年度の助成事業の募集には92件の申請があり、
この中から、上半期・下半期あわせて28件への助成が決定いたしました。
なお、2004年度下半期（10月～2005年3月）実施分の事業については、
7月1日から7月30日の期間にも募集を行います。

分野別の申請件数は、青少年・草の根交流が45件、シンポジウム・国際会議が17件、芸術交流が30件で、ここから青少年・草の根交流が19件、シンポジウム・国際会議が5件、芸術交流が4件採用されました。

下半期申請について
2004(平成16)年度下半期(10月～2005年3月)の人物交流助成分野の助成申請を7月1日(木)から30日(金)までの期間で受け付けいたします。対象分野は上半期と同様、青少年・草の根交流、シンポジウム・国際会議、芸術交流の3つです。申請案内

および申請用紙は、基金にて配布・郵送を行っているほか、基金のウェブサイトからファイルをダウンロードできます。申請書は締切日必着で基金までお送りください。申請に際し不明な点がございましたら、担当者までお問い合わせください。

青少年・草の根交流（日韓共同未来プロジェクト）19件

おおみや市民吹奏楽団 日韓合同演奏会 ～アパッショナータ・ウインドオーケストラを迎えて～	おおみや市民吹奏楽団	2004/4/3-4/5	さいたま文化センター
第2期“함께 = ともに”日韓朝高校生 平和特派員	“함께 = ともに”日韓朝高校生 平和特派員実行委員会	2004/5/2-5/5、 7/28-7/31	名古屋、全州ほか
南北コリアと日本のともだち展	南北コリアと日本のともだち展 実行委員会	2004/7/7-7/14、 10月(予定)	ソウル、東京都児童会館
第二回利川第一高校・白山高校やきもの交流	白山高等学校PTA国際交流委員会	2004/7/11-7/17	神奈川・白山高、京都ほか
2004年度 日韓青少年交流事業	社団法人 日韓経済協会	2004/7/22-7/26、 8/4-8/9、8/11-8/16	東京、ソウルほか
日韓青少年交流会	みえ青少年先導指導会	2004/7/24-7/27	三重・鈴鹿青少年センター
名護屋小学校・萬徳初等学校ホームステイ国際交流	名護屋小学校PTA	2004/7/26-7/30、 8/17-8/20	佐賀・名護屋小、 全南・萬徳初等学校
第20回日韓学生フォーラム	第20回日韓学生フォーラム	2004/8/2-8/16	ソウル
2003 Korea-Japan Mentally Retarded Football Festival	日本ハンディキャップサッカー連盟	2004/8/6-8/9	静岡・御殿場市
第12回日韓美学研究会	広島比較美学研究会	2004/8/6-8/11	広島大、広島・下蒲刈島ほか
平成16年度北九州市・ 釜山市中学生文化交流体験事業	北九州市青少年育成市民会議	2004/8/6-8/9、 11/5-11/8	北九州、釜山
佐那河内小学校・ 三角山初等学校ホームステイ国際交流学習	佐那河内小学校PTA国際交流運営委員会	2004/8/7-8/9	徳島・佐那河内小ほか
アジア青年平和交流事業	財団法人 長崎平和推進協会	2004/8/7-8/28	長崎、佐世保、釜山ほか
第19回日韓学生会議東京大会	第19回日韓学生会議東京大会実行委員会	2004/8/11-8/26	東京ほか
「空飛ぶ車いすIN韓国」	空飛ぶ車椅子を応援する会	2004/8/19-8/24	ソウル、釜山
日韓歴史教育交流東京シンポジウム	日韓教育実践研究会	2004/8/21-8/22	東京・海城中、海城高
日韓中学生フラッグフットボール・文化交流	優志会	2004/8/27-8/29	九州産業大
東アジア市民学校づくりに向けた カリキュラム作成ワークショップ	市民がつくる政策調査会	2004/9/18-9/22	ソウル・クリスチャンアカデ ミーハウス
第2回BESETOHA合唱祭	東京大学音楽部コーラアカデミー	2004/10/8-10/11	国立オリンピック記念青少年 総合センター、東京芸術劇場

シンポジウム・国際会議 5件

日韓女性人権シンポジウム - 女性への暴力（DV・性売買）をめぐる -	お茶の水女子大学ジェンダー研究センター	2004/6/5-6/6	東京、大阪
国際シンポジウム 「松雲大師と徳川時代の朝鮮通信使」 松雲大師渡日400周年記念	松雲大師（四溟堂）事績研究会	2004/6/13	岡山国際交流センター
第7回アジア児童文学大会	第7回アジア児童文学大会実行委員会	2004/8/4-8/9	名古屋市青少年文化センター、 富山・大島町絵本館
日韓アジア教育国際会議	日韓・アジア教育文化センター	2004/8/8-8/10	兵庫・小林聖心女子学院
「障害者アート」日韓シンポジウムの開催	財団法人 たんぽぽの家	2004/9/1-9/26	ソウル、奈良県新公会堂

芸術交流 4件

劇団ミンドゥルレエによる演劇 『トン・ピョラク』とワークショップを通じた 韓国文化の体験	みんなの広場 ハンマダン	2004/4/9-4/14	札幌、小樽
現代の秘境展（38度線非武装地帯写真展）	東京日韓親善協会連合会	2004/4/24-5/16	東京都写真美術館
金利恵 韓舞ワークショップ	株式会社 青い鳥創業	2004/6/1-6/30	山形、東京、名古屋、京都、 大阪、福岡
劇団態変ソウル公演2004	劇団態変	2004/10/26-11/1	ソウル・アルングジ劇場

「日韓友情年2005 ～進もう未来へ、一緒に世界へ～」

2003年6月の日韓首脳会談において、日韓国交正常化40周年を記念して2005年を「ジャパン・コリア・フェスタ2005」とすることが合意されましたが、このほど、これを「日韓友情年2005」とも呼称することになりました。当基金も人物交流助成を通じて、各種交流事業に積極的に協力していく予定です。

「日韓友情年2005 ～進もう未来へ、一緒に世界へ～」のコンセプト

日韓両国は、2002年のワールドカップ・サッカー共同開催や「日韓国民交流年」を経て、かつてないほど親近感を深めました。また、両国は、「一日生活圈」の更なる拡大を目指し、経済・社会分野でも日に日に緊密度を増しています。こうした趨勢の上に立って、2005年には、更に文化、経済、社会などあらゆる分

野において交流を進め、パートナーとして21世紀を共に歩む日韓関係の礎を築いていき、「日韓友情年～進もう未来へ、一緒に世界へ～」をキーワードとして、次世代を担う若者をはじめとした、両国国民の間の友情と相互理解を更に深めたいと考えています。

2004年度訪日・訪韓フェローシップ採用決定

2004年度の訪日・訪韓研究支援（フェローシップ）の採用者が決定いたしました。

基金フェローシップには、人文社会科学分野の日本研究を行う韓国の研究者を対象とした「一般」と、日本と韓国の歴史・両国関係史・朝鮮半島研究を行う、日韓双方の研究者を対象とした「歴史」の2種があります。

2004年度フェローシップの応募件数は訪日70件（一般53件、歴史17件）、訪韓8件、

そのうち採用は訪日が24件（一般18件、歴史6件）、訪韓が4件です。

日韓学術文化青少年交流事業（一般）

氏名 (가나다順)	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
康栄勳	済州大学校法政大学行政学科助教授	日韓両国の地方分権推進戦略の実態と成功要因に関する比較研究 (早稲田大学大学院政治学研究科)	2004/12/1-2005/10/30
金セピョル	文化放送 (MBC) 時事制作局プロデューサー	日本社会における大相撲の文化的考察 (東京大学大学院人文社会系研究科)	2004/4/1-2004/6/30
金英秀	西江大学校社会科学部 政治外交学科副教授	日本社会の北朝鮮観：実態と変化の展望 (慶應義塾大学法学部)	2004/4/1-2005/2/28
盧仙淑	釜山大学校人文大学日語日文学科助教授	『千載和歌集』恋歌における他者規定 (梅光学院大学大学院)	2004/9/1-2005/7/31
裴廷鎬	統一研究院前任研究委員	脱冷戦期における日本と北朝鮮関係の変遷と日本の対北朝鮮政策 (東京大学大学院総合文化研究科)	2004/4/1-2005/2/28
沈永三	延世大学校社会科学研究所専門研究員	北朝鮮軍事力 (慶應義塾大学法学部)	2004/4/1-2004/12/1
俞玉姫	啓明大学校外国語文学大学 日本語文学科副教授	日韓の詩歌に現れた聴覚イメージの比較研究：動物の声を中心に (九州大学文学部)	2004/4/1-2005/2/28
尹泰永	大法院調査委員、 中央大学校法科大学法学科講師	営業権（営業上利益）の民法上保護 (京都大学大学院法学研究科)	2004/9/1-2005/7/31
李胤錫	延世大学校文科大学人文学部 国語国文学専攻教授	日本の近世の資本の研究 (天理大学文学部国文学国語学科)	2004/9/1-2005/7/31
林慶花	高麗大学校文科大学日語日文学科講師	中国詩理念の東アジアにおける転移と変容：和歌と時調を対象にして (東京大学大学院人文社会系研究科)	2004/4/1-2005/2/28
林憲燦	仁済大学校人文社会科学大学 国際語文学部副教授	日本語の受動と使役：韓国語との対照研究を通して (広島大学大学院教育学研究科)	2004/8/1-2005/6/30
丁世鎮	中央大学校民族発展研究院研究教授	日本と韓国におけるMD推進戦略の比較研究： 東北アジアにおける安全保障と日韓協力の可能性という観点から (東京大学大学院総合文化研究科)	2004/6/10-2004/9/9
鄭駿永	韓国外国語大学校講師、 ソウル大学校大学院社会学科博士課程修了	植民地期朝鮮の中等教育：1920-30年代朝鮮中等教育体制の特徴と位相を中心に (京都大学大学院教育学研究科)	2004/9/1-2005/7/31
鄭還泳	公州大学校人文社会科学大学地理学科教授	韓国と日本における都市間人口移動の比較研究 (東北大学大学院理学研究科)	2004/8/2-2005/6/30
陳泌秀	ソウル大学校大学院人類学科博士課程修了	米軍基地と戦後沖縄文化の変化：日本沖縄金武町における民族誌的研究 (琉球大学法文学部人間科学科)	2004/9/1-2005/7/31
崔建植	釜慶大学校人文社会科学大学 日語日文学部副教授	上代人名・神名の命名について (大阪市立大学大学院文学研究科)	2004/12/1-2005/2/28
崔鎔春	尚志嶺西大学法学科教授	自由貿易協定下の公開株式会社の法理と運営に関する比較法的研究 (早稲田大学大学院法学研究科)	2004/4/1-2005/2/28
崔胤京	成均館大学校人文科学研究所研究員	日本における新造語とその伝播様相 (東京大学大学院総合文化研究科)	2004/5/1-2004/7/31

日韓平和友好交流計画事業（歴史）

● 訪日フェローシップ

氏名 (가나다順)	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
権五榮	韓神大学校人文大学国史学科副教授	5～6世紀代の百済と倭の交渉：物資、技術、人間の移動 (大阪大学大学院文学研究科)	2004/8/1-2005/6/30
金基承	順天郷大学校語文学部国際文化専攻副教授	日本留学を通して見た趙素昂の近代体験 (明治学院大学国際学部附属研究所)	2004/9/1-2005/7/31
魯成煥	蔚山大学校人文大学日本語日本学科教授	朝鮮通信使の記録から見た近世日本の生活史に関する研究 (国際日本文化研究センター)	2004/12/1-2005/10/31
朴祥美	プリンストン大学東アジア研究科 博士課程修了	1930・1940年代日本の文化政策と帝国文化ブームに関する研究： 植民地朝鮮芸術家のアメリカ公演を中心として (東京大学社会情報研究所)	2004/9/1-2005/7/31
安在皓	東国大学校（慶州）人文学部 考古美術史専攻副教授	東アジアにおける農耕集落の研究 (国立歴史民俗博物館考古研究部)	2004/9/1-2005/7/31
趙明濟	釜山大学校韓国民族文化研究所研究員	12～13世紀韓日における臨濟宗の現実対応と看話禪 (京都大学大学院文学研究科)	2004/4/1-2005/2/28

● 訪韓フェローシップ

氏名 (50音順)	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
岩本通弥	東京大学大学院総合文化研究科助教授	親子心中の日韓比較に関する歴史民俗学的研究： 民俗文化と近代家族の変容過程 (中央大学校文科大学附設日本研究所)	2004/7/15-2005/3/31
川村湊	法政大学国際文化学部教授	韓国における日本近現代文学の研究状況 (漢陽大学校（安山）国際文化大学日本語文化学部)	2004/4/1-2005/2/28
田中隆一	日本学術振興会特別研究員PD	日本の植民地支配と「在満朝鮮人」社会： 政策とイデオロギーの視点から (ソウル大学校韓国文化研究所)	2004/4/1-2005/2/28
山根真理	愛知教育大学教育学部助教授	韓国における高齢者のライフコースと社会変動： 家族イベントとのかかわりを中心にして (嶺南大学校生活科学大学)	2004/4/2-2004/11/1

所属機関・役職は申請時点のものを掲載しています。

日韓文化交流会議新メンバー決定

「日韓文化交流会議」(1999年発足)の新メンバーが、以下の通り決定しました。

日本側(敬称略)

座長	平山郁夫	東京芸術大学学長
副座長	小此木政夫	慶應義塾大学法学部教授
副座長	松尾修吾	国立科学博物館監事
委員	饗庭孝典	東アジア近代史学会副会長
	亜洲奈みづほ	作家
	新井満	作家
	千玄室	前裏千家家元
	芳賀徹	京都造形芸術大学学長、東京大学名誉教授
	広中平祐	財団法人数理科学振興会理事長
	黛まどか	俳人
	水谷幸正	浄土宗宗務総長

韓国側(敬称略)

座長	金容雲	漢陽大学校名誉教授
副座長	柳 鈞	韓国放送公社(KBS)報道本部報道委員
副座長	鄭求宗	東亜ドットコム社長
	金然鐘	文化コンテンツ学会理事、秋渓芸術大学校文化産業大学院長
	都正一	民族文学参加会議諮問委員、文化改革市民連帯共同代表
	李柱益	ボラム映画社代表理事
	李惠慶	ソウル女性映画祭執行委員長、女性文化芸術企画代表
	林英雄	劇団「サヌリム」代表
	林貞希	(社)明るい青少年支援センター代表
	千炳泰	釜山大学校法科大学教授
	崔成泓	元外交通商部長官

韓国図書翻訳出版事業 「韓国の学術と文化」シリーズ新刊

以下の図書が韓国図書翻訳出版事業の一環として法政大学出版社から刊行されました。

**李憲昶著、須川英徳・六反田豊監訳
『韓国経済通史』**

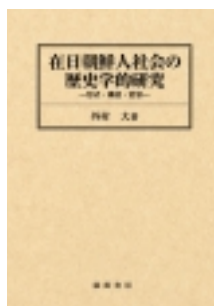
古代から現在までの韓国の経済構造の歩みをめぐって、これまで研究方法や研究視角が分断されていた各時期について一貫した歴史発展の構図を提示する初の本格的通史。初期農耕社会の成立から説きおこし、市場が形成される中世社会の基本構造をヨーロッパの封建社会との対比において浮彫りにし、商人資本の成長による貨幣経済の発展と対外貿易の展開、そして近代的産業化への経済的蓄積のプロセスをたどる。近代においては、開港と自主的近代化の挫折、とくに植民地下の経済の動向を実証的に明らかにしてその実態と歴史的意義を検証する。さらに解放から今日までの経済と国民生活の歩みを統計資料を駆使して跡づけるとともに、「北韓」の経済動向の分析にまで及ぶ。



図書出版助成

外村大著『在日朝鮮人社会の歴史学的研究 - 形成・構造・変容 - 』（緑蔭書房、2004年3月）

在日朝鮮人の社会の形成過程とその実態及び変遷を歴史学の立場から考察する研究書。戦前から戦後にかけて、在日朝鮮人自身の残した史料に主に依



拠して彼らの形成した社会のあり方を明らかにし、それを踏まえて彼らの意識や活動を分析していく。従来の運動史・団体史とは異なる、生活のあり方を踏まえた内在的な分析の成果である。

長谷川由起子著『高校生のための韓国朝鮮語 1 好きやねんハングル』（白帝社、2004年3月）

高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク西日本ブロック「学習のめやす」チームが1999年から取り組んできた、初の日本の高校生向けの韓国朝鮮語教科書。前半では平易な用語・発音表記と、精選された身近な語彙を通じて、

文字と発音を習得する。後半では、基本的な文法事項の定着と活用、実際の場面に役立つ会話文の習得をめざす。



2004年度図書センター休館予定

図書センターは、館内整理のために下記の日程で休館します。

2004年9月24日(金)～9月30日(木)

訪日団

団体名	計	男	女	期間	団長
釜山日本語弁論大会入賞者等	20	8	12	1/20-1/29	金東完 蔚山大学校人文大学日本語日本学科教授



釜山日本語弁論大会入賞者等訪日団
そば打ち体験（島根）



釜山日本語弁論大会入賞者等訪日団
島根大学での学生交流

訪韓団

団体名	計	男	女	期間	団長
大学生（3）	19	7	12	3/2-3/11	浜之上幸 神田外語大学外国語学部韓国語学科教授
大学生（4）	19	5	14	3/16-3/25	成澤勝 東北大学大学院環境科学研究科教授

ソウルの村祭(マウル・クッ)―都市に生き続ける巫俗の伝統―

浮葉正親

旧正月(1月22日)の朝、零下20度近い寒気のなか、梨泰院の繁華街に程近い龍山区の漢南洞まで村祭(マウル・クッ)を見に出かけた。かつて漢南洞には、南山から漢江に注ぐ小さな川を挟んで、クン漢江、チャグン漢江という名の二つの村(マウル)があった。この日、祭が催されたのはクン漢江マウルの住民が祀る府君堂(プグンダン)である。大韓帝国末期まで漢南洞には、「漢南渡」という漢江流域最大の船着場があった。漢江を通して都に搬入される穀物を扱う巨商たちがここに住み、植民地時代も多くの日本人が住む高級住宅街であったという。祭を主管する李千萬氏(1938年生)は祖父の代から漢南洞に住み、龍山区の区議会議員を務めた経歴を持つ。7年前に「クン漢江府君堂委員会」を結成し、総務として祭の運営に当たっている。祭の経費は古くからの住民や漢南初等学校の卒業生がメンバーとなっている「漢南郷友会」の寄付金で賄われており、龍山区からも補助金をもらっている。郷友会の会合は毎月開かれ数

十名が集まるというが、この日の祭に府君堂を訪れたのは数名だけであった。李承晩政権下での迷信打破の風潮のなかで、それまで40坪ほどあった府君堂の敷地もほとんどが売られてしまった。1960年代後半に第三漢江橋(漢南大橋)が建設され、幅100m近い道路がマウルを横切る形で開通したため、多くの住民が転出を強いられた。また、その後の住宅開発によってマウルの景観も大きく変わっている。それでも祭を続けているのは、自分の代で祭を途絶えさせたくないという役員たちの熱意によるところが大きい。

祭のもう一方の主役は、クッを取り仕切る万神^{*1}・金鶴順氏(1926年生)である。平壤で生まれ、満州の奉天(現在の瀋陽)で軍需工場のタイピストをしていたという金万神は流暢な日本語を話す。解放後、家族とともにソウルに逃れ、軍人だった夫と結婚して7人の子どもをもうけた。14歳の頃から神病^{*2}を患い、たびたび発作に悩まされながらも何とか耐えていたものの、除隊した夫が就職に失敗するなど良く

の死後、漢南洞の府君堂のクッを受け継いでから40年近くになる。マウル・クッの報酬は個人に依頼されるクッの半分にもならないが、伝統を受け継いでいることが一流の万神の証なのだという。

ソウルには現在でも20ヶ所以上のマウル・クッが残っている。

その数は1960年代の約半数に減っているものの、最近では区レベルでの「地域サルリギ(町おこし)」ブームのなかで、マウル・クッの復活が検討されていると聞く。ある民俗学者の研究によれば、ソウルとその近郊には80ヶ所以上のクッ堂(クッを行う式場)があり、個人によるクッはますます盛んに行われているという。クッの相場は700万ウォンくらいであり、政治家や芸能人、スポーツ選手になると3000万ウォン以上のクッも珍しくないそうである。富と権力が集中する首都ソウルで、巫俗は人々の夢と欲望を飲み込みながらしたたかに生き続けているようである。



万神のCONS(お告げ)を聞く李千萬氏(中央)

ないことが続き、31歳のとき降神儀礼(ネリム・クッ)を受けた。神母(シンオモニ)^{*3}はあまりクッが上手ではなかったので、有名な万神を呼んでもらい、踊りの所作や巫歌を覚えていった。その頃はすべて口伝えだったので、一人前の万神になるには10年かかるのが普通だったという。神母

*1 万神 女性のムーダンの敬称、とくにソウル地方で使われる

*2 神病 ムーダンになる前に患う原因不明の病気

*3 神母 守護神霊を特定し入門の手ほどきしてくれる先輩のムーダン

うきば まさちか

現在基金フェローシップで中央大学校日本研究所客員研究員として韓国に滞在中(3月末まで)。名古屋大学留学生センター助教授。共著に、『怪異の民俗学 1 憑きもの』(河出書房新社、2000年)、論文に、『韓国の都市におけるシャーマニズム文化の変容』、『沙平裴俊鎬教授華甲紀念論叢』(J&C、ソウル、2001年)がある。